

コース紹介

このマップは、西宮北口から用水路を辿り、400年以上前に作られた百間樋へ向かうコースです。

百間樋は現在も武庫川の豊かな水を運び、田畑を潤す役割を果たしています。阪神・淡路大震災の前と後では景観は大きく変わりましたが、多くの用水路は暗渠にならずに残っており、市内にははりめぐらされています。


用水路を訪れる生き物の多様性や、天気によって刻々と変わる水の音など、様々な表情を見せる用水路を辿りながら、西宮北口の商業地区から段上の田園地区へ移り変わる景観をお楽しみください。

コースの楽しみ方

①水門を探してみよう

田畑はもちろん、住宅地を通る用水路にも大小様々な水門が設置されています。ナンバーがつけられたものもあり、次は何番かな？とワクワクすることができそうです。

用水路を辿るコースは、水門を辿るコースともいえるかもしれません。

*中面のマップ上に水門マークをつけています。



大島町

②手づくりの説明板を探してみよう

甲東地区にはたくさんの文化財が残っています。その文化財の多くには甲東文化財保存会の手作りの説明板(顕彰札)が立てられています。保存会は、地区の石造物をはじめとする歴史的な研究を昭和45(1970)年よりされています。

石造物の中には、破損や倒壊、移転したものなどもありますが、説明板が訪れる人にわかりやすい解説をしてくれています。



若山町

③アジアを探してみよう

阪急甲東園駅周辺にはインド料理、タイ料理、中華料理、インドネシア料理、韓国料理などのお店があり、日本にいながらアジアの料理や雰囲気を楽しむことができます。

阪神・淡路大震災から10年ほどたち、復興が落ち着いてきた頃、阪急の線路によって東西に分断されたお店や地域のつながりが希薄になったことから、アジア店舗同士で「甲東園リトルアジア」というグループを作り、甲東園周辺を盛り上げようと協力しあっています。

*取材：タイ国料理店

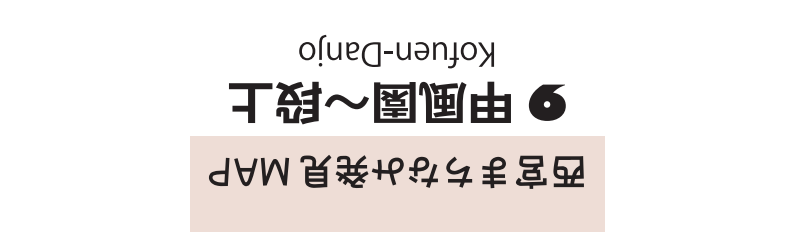
*リトルアジア：中面地図のエリアにアジア料理店が点在



表紙写真：甲風園3丁目より撮影(阪急電車の下を横切る水路)

参考文献：

「西宮市史・第2巻」西宮市 / 昭和35(1960)年発行
「宮っ子」西宮市 / 平成21(2009)年10・11月発行
「語り部ノートにしのみや」西宮市 / 平成14(2002)年発行
「甲東の文化財を訪ねて・改訂版 -石像物を中心に-」甲東文化財保存会 / 平成28(2016)年発行
「甲東ウォーキングマップ」甲東文化財保存会 / 平成9(1997)年発行
「西宮の川を学ぶ」NPO法人こども環境活動支援協会 / 平成16(2004)年発行
「町名と祭りのお話」山下忠男著 / 西宮商工会議所 / 平成24(2012)年発行
「西宮七園アラカルトⅡ」セミナー資料 / 講師：山下忠男 / 平成22(2010)年開催
「大市八幡神社 大市太鼓台について」大市八幡神社 御輿・太鼓保存会資料
「西宮水天宮由来」水天宮資料
ホームページ：西宮市・関西学院事典・渋沢社史データベース
*このほか、多数の情報を参考にしましたが、類似情報源は割愛しました。




【西宮まちなみ発見MAP】について

西宮まちなみ発見クラブでは、平成25(2013)年度の活動として西宮の歴史・自然・暮らしを感じる「景観みどころコース」を作成。その中から携行用の「西宮まちなみ発見MAP」を平成26(2014)年度に5つ、27(2015)年度に3つ作成しており、今回、新たに9つ目のコースを作成しました。

このMAPを片手に、西宮の魅力に触れてみてください！

1 甲陽園～廣田神社	6 阪神西宮～夙川
2 西宮北口～甲子園口	7 鷲林寺・苦楽園
3 夙川～御前浜	8 鳴尾
4 甲子園	9 甲風園～段上
5 山口町	

「視点場」：中面地図上のこのマーク「視点場」とは、メンバーが見つけたオススメの景観が見えるベストポジションです。視点場は、誰でも近寄れる場所を設定しています。

【西宮まちなみ発見クラブ】とは

西宮まちなみ発見クラブは、公募による市民で構成されるクラブで、平成17(2005)年より活動しています。景観に関する情報の共有や意見交換を通じて西宮のまちなみについて考え、美しいまちなみづくりを目指す活動を行っています。

平成30(2018)年2月26日発行
企画・制作：西宮まちなみ発見クラブ
西宮まちなみ発見クラブ事務局：西宮市役所都市デザイン課 (0798-35-3526)

■百間樋と水利用の変遷

百間樋の大工事は、400年以上も前、水不足に悩む段上・上大市・下大市・門戸・高木の旧大市庄五ヶ村がやりとげました。後に、下流の9つの村(上瓦林・下瓦林・御代・広田・中・芝・津門・今津・西宮)も加わり、井組(ゆぐみ)という組織を結成し、百間樋を含めた用水路の管理を行ってきました。樋の取り替え工事の負担や水の配分をめぐる紛争はしばしば起こっていましたが、大正9(1920)年に樋がコンクリート製になったことや、昭和16(1941)年に甲東村が西宮市と合併して修復費用を市が負担することになったことで、争いは収束していきます。

昭和30年代に入り、下流域の水田の減少で用水が余る一方、住宅地の増加で水道用水が必要となり、用水は昭和39(1964)年より水道水としても使われるようになりますが、平成23(2011)年、鯨池浄水場の閉鎖により水道水への取り入れ樋門も閉鎖されました。

現在も水利権は生きており、百間樋水利組合が分水の際の堰、溝の幅や深さなどの管理を行っています。

*百間樋の用水対象の農地面積：昭和32(1957)年21,547アールだったが、平成23(2011)年2,853アールに。

■武庫川から百間樋へ

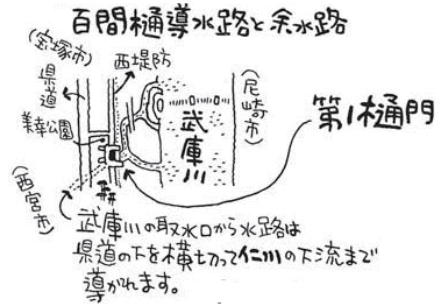
百間樋の取水口は武庫川にあります。水路は第一樋門から美幸公園横を通り、兵庫県道114号からは暗渠となって西宮市市有地通路を抜けて、百間樋へと続きます。



武庫川の取水口



美幸公園横の樋門



*イラスト：「ええとこ西宮(40)ぶらり見てある記 百間樋」宮っ子2009年9・10月発行より



宝塚市側の導水路(暗渠)

■百間樋から田畑へ

百間樋は仁川の底をくぐって百間樋児童遊園の南側まで続きます。出水口からは絶え間なく武庫川の水が流れ出ています。出水口のすぐそばに分水路があり、東は百間樋川、西は富倉川となります。



百間樋の出口の分水路



地下通路にある「百間樋の由来」(甲武中学校PTA製作)

変わるまちなみ・引き継がれるまちなみ

私たちが心地よいと感じる風景、懐かしいと思う風景、あどき忘れまいと思う風景が、このコースには詰め込まれています。

変わらないまちなみを形成する営みや施設を紹介します。

●休耕地ゼロの田園風景

市内南部の田畑が少なくなる中、段上地区では多く残っています。春には様々な野菜の苗が植えられ、夏にはイチジク、秋には稲やミカンなどが実ります。

農家の中にはご高齢の方もいらっしゃるいますが、元気に農機具を操り、現役で活躍されています。また、Uターンした若いメンバー同士で平成25(2013)年から直売所を運営している方々もいらっしゃいます。何か楽しいことをやろうと思ったのがきっかけとのことですが、今では開店を待つ地域住民が増え、野菜の話などで盛り上がっているそうです。このように地域との関係を密にして理解し合うことは、田園風景を守り育てることにもつながっているといえるでしょう。

*取材：ふれあいファーム段上 / 営業日時：毎月 隔週木曜 10時30分～売り切れまで



●大市八幡神社

かつては、旧大市庄五ヶ村の郷社でしたが、現在は、上大市、下大市、樋ノ口の産土神となっています。現存する本殿は、伊勢神宮に代表される神明造りが変化した三間社流造檜皮葺(さんげんしゃながれづくりわだぶき)で、慶長15(1610)年建立ともいわれている貴重な建物です。西宮市及び兵庫県の文化財に指定されています。また、柱巻彫刻が施された珍しい太鼓台があり、平成28(2016)年10月、40年ぶりに曳行が再開されました。



●水天宮(西廣寺)

文政年間、段上村などいくつかの村の間で激しい水利権の争いが生じたとき、段上村の庄屋が水天宮に21日間欠かさず願かけをし、その満願の文政7(1824)年2月18日、村人念願の水利権公認の報が大阪奉行所よりもたらされました。現在も年中行事として記念祭が行われています。

阪神・淡路大震災で壊滅的な被害を受けましたが、見事に再建されました。



●カルメル会修道院

高い塀と樹木に囲まれているためか、交通量の多い中津浜線沿いにあるにも関わらず、神秘的な雰囲気緑豊かな景観を見ることができます。

戦後間もない昭和22(1947)年、日本で2番目のカルメル会修道院としてこの地に建てられました。テニスコートや日本庭園のある邸宅を購入し、当時住宅に使われていた建材は、聖堂などの施設の建具としてできる限り活用されたそうです。庭もそのまま維持され木々の緑も保たれています。

一般の方でも礼拝することができ、手作りのろうそくを購入することもできます。

*取材：カルメル会修道院 / 一般の方は2階の聖堂まで入ることができます。



1 甲風園の松並木／甲風園

東は阪急今津線、西は津門川、南は阪急神戸線、北は国道171号に囲まれた細長い区画で、昭和6(1931)年、阪急電鉄により「甲風園」住宅地として販売されました。開発総面積8.2haは当時において近代的住宅街として屈指の規模でした。沿線には昔の面影の残る松並木が続いています。また、今津線沿いの用水路上は駐輪場として活用されています。



3 百間樋高木村用水取樋／大島町

この取樋には「字三拾六高木村用水取樋」と彫られ、花崗岩で出来た立派なものでした。阪神・淡路大震災で破損し、現在もその状態で水路に並べられています。字名の「三拾六」は、昔、条里制が行われていた頃、この辺りが三十六ノ坪に該当したことからつけられたといわれています。
* 条里制：日本の古代の土地区画制度。6町(約654m)四方の区画を里と呼び、1里を36坪とした。



5 整備された遊歩道／段上町

阪神・淡路大震災後に、百間樋川沿いの歩道が整備されました。水路の側面は、従来の水路と同じ雰囲気のまま、水辺らしい景観が創り出されています。また、バルコニーを設けるなど、住民の憩いの場にもなっています。遊歩道の途中には、百間樋川の説明石板もあります。(地図の黄色部分が遊歩道)



7 百間樋／田近野町～段上町

武庫川の水を引くために、天井川となっている仁川の下をくぐらせて通した樋は、当時木製で、400年以上前に作られました。長さは田近野(たじかの)町から段上町まで、およそ百間(約182m)あることから、百間樋と呼ばれています。田近野町から約1km先の武庫川西堤に取水口があります。(写真は、百間樋児童遊園南側にある出口)



2 ユニークな飛び出し坊やを探せ！／甲風園ほか

西宮出身の谷川流(たにがわながる)氏原作『涼宮ハルヒ』シリーズの舞台となっている阪急西宮北口駅周辺には、シリーズの登場人物をモチーフにした飛び出し坊やが設置されています。ファンによって作られたもので、平成30(2018)年現在、7ヶ所にあります。まちを散策しながら探してみたいかがでしょうか。(飛び出し坊やは地図の赤い点から津門川までの間にあります)



4 甲武中学校内を通過する用水路／樋ノ口町

百間樋川をまたぐように学校が建てられ、水路の上には橋がかけられています。テニスコート側には大きな分水路があり、西側は高木方面へ、東側は荒木方面へとつながっています。



6 田園と用水路の景観／段上町

百間樋川のせせらぎや田畑から漂う香りを感じながら、四季折々の景観を楽しむことができます。昔は田畑が一面に広がり、畦道から甲山などの六甲山系が一望できたことなのでしょう。現在は住宅が増えましたが、潤いと緑が美しく調和したまちなみとなっています。



8 阪急甲東園駅／甲東園

阪急今津線(宝塚～西宮北口)は、大正10(1921)年9月に開通しました。当時は単線で、宝塚南口、逆瀬川、小林、門戸厄神の4駅でした。翌年の大正11(1922)年、甲東園駅(当時は甲東園前停留場)が開業。大阪の実業家である芝川又右衛門により土地と建設費が提供され、完成しました。駅名は芝川氏が経営していた果樹園「甲東園」に由来しています。

